

# ほっかいどうの社会保障

2012年10月25日

北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

## 「道民の要求、地域の実態に基づいた計画に」

### 道立病院事業計画問題で要請・懇談

10月23日、地域医療と公立病院を守る道連絡会は、北海道に対して、「新・北海道病院事業改革プラン（仮称）素案」についての要請書（要旨は右下）を提出し、懇談しました。北海道は、パブリックコメントを11/9まで募集しています。応募しましょう。（<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/dbs/soan-pabukome.htm>）

医療計画については、11月14日には、素案ができる予定、その後、懇談することになりました。



#### 【主要要望内容】

- I. 地域住民・職員の要求や地域の実態を調査し、住民も含めた計画づくりをしてください
- II. 厳しい経営状況の根本的な要因と公立病院の役割について明確にしてください。
- III. 地域住民の要求にもとづく医療内容の拡充をはかり、働く職員も元気になる経営計画を
- IV. 地元の合意のない「苫小牧病院廃止」はやめて下さい。
- V. 独立行政法人化など、経営形態の見直しはやめ、削除して下さい。

#### 計画は、医療の充実をはかることを中心に

道立病院管理室から、素案の説明をうけて、懇談しました。はじめに、大橋晃道社協会長が、「道立病院の事業改革を検討するには、医療の充実をはかりつつ、いかにして経営の改善を図っていくか、という視点で進められなければなりません。しかし、これまでは、累積赤字を解消するかという狭い視点でのプランの繰り返しで、結果として累積赤字を増大させる悪循環に陥っています」と指摘しました。

「計画作成に当たって、地域説明会も参加者対象が限られている。住民や職員の意見を反映しているのか」との質問に「住民からは医療の拡充を求める声が多い。アンケートも500人から行っている」と説明。アンケート内容を提供してもらうことになりました。

「病院経営の困難は、国の医療費抑制政策があり改善が必要ではないか」と指摘。素案で項目を起こしている「医師不足やその対策」も

議論に。医師数は道立病院全体の定数100人に対して80名で、江差病院では1/3が不足していることも明らかに。「看護師などの医療技術者の対策も重要で項目を起こす必要もあるのでは」との指摘に対して、「看護師不足も深刻で病棟を閉鎖寸前のところもある。確かに項目がないので検討したい」と回答。

苫小牧病院の閉鎖については、地元から反対の意見が多く、「存廃を検討する」との表現に変えたこと、独立行政法人化した他県の特徴を聞くと、「独法化前から経営は改善しているところが多い」と説明。

道の担当者からは、「道としても医師対策など国へ働きかけている。是非、みなさんからも提案をしてほしい」と呼びかけられました。要望書については、後日文書で回答することになりました。

## 「生きていけない」医療や介護の相談も 札幌白石区、東区で相談会



21日は、「しろいし くらしSOS相談会」が初めて行われました。相談者は15人（電話相談2人含む）、生活保護利用者、申請中も含め、生活維持が困難な人は半数でした。

21日に行われた「SOSネットワーク札幌東区相談会」は今回で4回目です。相談者は9人。いずれも、経済的な理由で、生きていくのが大変の実態が広がっていること



や、医療や介護制度の問題点なども明らかになりました。

体を壊して休職中の女性から「奨学金や過去の病院代の分割返済が滞っている。12月まで休職は認められるが、完治しなければ失業してしまう」（白石区）、11月で期間満了する契約社員の男性から「月2万円の医療費がかかる。今も親子でなんとか生活している、失業後の治療や生活も不安」（東区）、介護保険料を減免の相談もありました。

生活と健康を守る会や労働組合の相談員からは、「事務所への電話は増えているので困っている方は多いはず、もっと相談会の周知方法など困っている方の届く工夫もしていきたい」などの意見も出されました。